

行政改革をどうするか



鮫島 春男議員

大崎町は単独で行くが、どのような形で乗り切っていくのか。

知恵と創意工夫で

町長

今後の行政改革の進め方は、「行政改革本部」をはじめ、いくつかの検討委員会からの改革案や町民のみなさまからのご意見等をもとに、「行政改革推進計画」に基づき実施して行く。知恵と創意工夫によって歳出規模を抑制し、民営化に馴染むものは適切な関与を残し、「民営化」あるいは「民間的経営手法」の導入を進めていく。

将来の大崎の
展望、計画は

鮫島議員

これからの大崎町は「どうなるか」と、みなさん心配しています。将来の大崎の展望、計画は。

連携・協力による
公私協働を

町長

「行政のスリム化」「住民とともにつくる町づくり」という観点から今後の行政改革を検討し、また、「人が住み、活気あふれる町づくり」を目指し、雇用の場の拡大策や定住促進策についても積極的に進める。さらに、町民のみなさまとの連携・協力による公私協働を促進する。

歳出削減、
歳入の確保は

鮫島議員

住民サービスの最低限必要な部分は削ってはいけないと思うが、歳出削減、歳入の確保は。

自主財源確保に努力

町長

地域の実状と時代の要請といった両面から全ての事務事業を再点検し、歳出の徹底的な見直しに取り組む。歳入の確保は、企業誘致や定住促進策等に積極的に取り組む、町税等の自主財源確保に努力する。

職員の意識改革は

鮫島議員

職員の意識改革、志気をあげる方法は、職員

教育、研修はどうするか。

全職員が
危機感をもって

町長

今日の地方自治を取り巻く環境は大変厳しいが、全職員が危機感をもって取り組んでいく必要がある。今後更に、そういった意識を高めるために様々な機会を捕らえ、職員に訴えていく。職員がやりがいを感じるような職場環境作りをしていく事で、職員の志気を高めていきたい。

行政改革委員会の
現状は

鮫島議員

本年3月の一般質問で、5月中に行政改革委員会を立ち上げるということだが、現状は。

8月中に委員を決定

町長

今後の予定として、7

月中旬から「調査専門委員会」の公募等を始め、8月中に委員を決定する。

町民からの人材発掘は

鮫島議員

町内に様々なキャリアの人がいるが、人材を今回発掘したらどうか。

公募により参加を

町長

提案のとおり、公募により町民の方々に参加していただく委員と学識経験者等を選考する。

財政豊かな
大崎町か

鮫島議員

最後に町長自身は、財政豊かな大崎町と思うか。明確に答えてもらいたい。

町の財政は厳しい

町長

今年の一月、二月に国の交付税の削減があり、予算編成を十分ゆとりがあつてやっていけるわけではない。町の財政は厳しいと常々とらえた上で、行政を施策すべきだ。



町立保育所民間移管の説明会
(大崎保育所)